

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）を実施しました。

新たな学校教育準備
プログラム推進事業
通信 No. 7

平成 30 年 11 月 26 日
教育指導課教育課程係

仙台市立沖野中学校

〈研究主題〉

『考えを広げ深める授業づくり』

ー協働・対話を通じた学びを通してー

- 第2学年 理科
単元名：酸素がかかわる化学変化
授業者：佐藤 英樹 教諭
- 第3学年 数学科
単元名：関数 $y=ax^2$
授業者：手塚 康平 教諭
高橋 由起 教諭

11月1日(木)に、仙台市立沖野中学校（大村 宏人 校長先生）を会場として、授業研究会を行いました。

理科は、化学変化を観察し、班ごとに原子・分子モデルを用いながら意見交換をして、その現象について説明する活動、数学は、生徒自身に課題を見付けさせ、その課題を他者と考え方を共有し合い、まとめながら関数関係について説明し合う内容でした。どちらの授業も、子供たち同士の対話から学びの深まりを目指した授業でした。それぞれワークショップ型の分科会を行い、手立ての成果と課題について意見交換がなされました。

全体会では、教育センター志賀有香指導主事から、主体的に学ぶためには、子供たちにゴールを見据えさせながら、見通しを持たせ、振り返る活動を取り入れることが大切であること、協働的に学ぶためには、しっかりとした根拠を明確にし、自分の考えを持った上で、分かりやすく相手に説明することが必要であること、深い学びを促すためには、授業の展開の中で、生徒に考えさせる場面をどこにするか、指導過程を練り上げ、発問を吟味することの大切さ等について助言がありました。



仙台市立人來田中学校

〈研究主題〉

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり』

ーアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善ー

仙台市立人來田中学校（佐藤 丈春 校長先生）では、11月19日（月）に、授業研究会が行われました。

「主体的な学び」を育成するために、英語科では、生徒にとって身近な宮城県での旅を想定させ、好きなことを自由に表現できる場面設定の工夫を行っていました。社会科では、自分たちで学習課題を考え、資料を基に仮説を立てさせることをねらいにしたものでした。どちらも、授業の始めに本時の「学習内容」と「目標（ゴール）」を明確に示し、子供たちへ授業に対する見通しをしっかりと持たせていました。また、子供たちが自分の考えを伝え合い、互いの良さを認めたり、疑問点を補い合ったりする様子が、どちらの学習にも見られました。

授業後の分科会では、『授業づくりの基盤は集団づくり』であること、『深い学びを促すための資料の重要性』等、様々な意見が出されました。

教育センター小玉卓之指導主事から、今学んでいることが「社会で使える力」となることを子供たちに意識させることの大切さについて、舟岡勇人指導主事から、『問いの質の違い』や、振り返りの3つの意味（「定着化」「一般化」「深化」）についてなど、新学習指導要領を見据えた授業づくりの在り方について、指導助言がありました。

- 第1学年 英語科
単元名：Unit9 チャイナタウンへ行こう
授業者：小山内 幸代 教諭
- 第2学年 社会科
単元名：日本の諸地域 5節 関東地方
授業者：内海 詠子 教諭
小澤 賢治 教諭

